

看護学科が目指す教育について

朝日大学保健医療学部看護学科長 濱畑章子

1. はじめに

朝日大学保健医療学部看護学科は、岐阜県で第5番目の大学の看護学科として、地域の保健医療の発展と看護師養成への期待に応えるために開設されました。定員80名で、保健師選抜は15名を選抜する予定です。看護教育に必須となる臨地実習は、400床、19の診療科を擁する朝日大学歯学部附属村上記念病院を中心として充実しています。学科の教育目標は、「人を思う心をもって関係を構築する力」「自己研鑽して未来を切り開く力」「社会に貢献し、変革する力」の3つの力を養うことです。4年間でこれらの3つの力が身に付いた、高度な知識、技術と心のある看護師を育てることは、看護学科に託された使命でもあると考えます。

私は、開設準備室の段階からカリキュラムの構築、教員の担当科目の決定と申請書の作成、臨地実習施設への訪問と実習依頼、学内実習室の設計への関わりと教育物品の予算化、図書を選択と予算化、高校への進学説明など、様々な事柄をこなしてまいりました。開設後は1年生を迎え、直面する課題に柔軟に対応しながら、教育環境を整えるために、日々、努力を重ねています。修士の頃に見藤隆子先生の「人を育てる看護教育」を読み、看護教育が学生を人として大切に育てること、常に学生に目を向けることを学んだことが、私の看護教育の考え方の原点になっています。この原点に立ち返りながら、私はその後の22年間、大学での看護教育に携わってきました。現在、朝日大学の看護教育を担う者として、この原点が私の教育者としての信念になっていると感じます。

大学教育は教員が教育と研究を十分にやってこそ、いい学生を育てる土壌作りになります。今回、第1号の紀要の発刊にあたり、看護学科カリキュラム構築の責任者として、第1代目の看護学科長として、看護教育への思いを朝日大学保健医療学部看護学科が目指す教育を通して述べたいと思います。

2. 看護教育に大切なもの

1) 愛情をもって学生を育てる

私が考える看護教育に大切なものは、第一に愛情をもって学生を育てるということです。高校卒業したばかりの学生は4年後に22歳になります。エリクソンの発達段階では、自己の同一性を他人のそれと融合させる若い成人期に相当します(エリクソン, 1977)。自分のことと他人のことを理解し、将来、看護職になる同じ目的に向かって、仲間集団を形成していきます。このような学生の発達の中で、教員はその個性が発揮でき、感性が磨かれ、人間として自ら成長することを見守る必要があります。愛情をもつという意味は、教員が学生を感化するのではなく、学生が自ら考え、一人の人間として、自立していくことを学生の後ろで見守ることだと思います。

2) 看護を考える教育

学生が看護を考える教育が大切だと思います。看護学科に入学する時点で、学生のほとんどが将来、看護職を目指しています。学生の中には早く、たくさんの看護学を学びたいという思いに焦ることもあるかと思います。4年という期間は人間として成長する期間でもあり、看護職として成長する土台となる期間でもあ

ります。すぐ看護ができる人材を育てるのは how to の教育です。看護師は個人として、1対1で対象者に向かいますが、このとき、相手の存在に対して how to の教育では対応できません。対象者のことを深く理解し、確かなエビデンスを用いてその状況にあった看護を、看護師としての自分の存在そのものを使ってケアを提供することが大切になります。対象者との人間関係のつながりを通して、看護の喜びを実感できます。仕事をこなす看護ではなく、相手と深く関わるケアリングができることが考える看護です。自己認識と自己の目的活用をすることで、看護者が自身の個人的な経験や感情など人間関係の主観的な要素をうまく使うことです（モンゴメリー、1995）。

看護基礎教育の中では学生が段階を踏んで、step by step で教育されるとき、考える力と看護する姿勢、相手の存在を尊重する姿勢が身に付き、看護師としての自分の存在を丸ごとケアに反映できるようになると考えます。

3) “させていただく” 看護

2007年（平成19年）の看護基礎教育のカリキュラム改正において、教育内容の充実を図る目的でコミュニケーション技術が登場しました。現在、看護教育のカリキュラムにはコミュニケーションの科目が多くなっています。私は、技術としてコミュニケーションは大切だと思いますが、もっと大切にしたいことは、そのコミュニケーションを図る上で持っておきたい姿勢です。看護する前に周囲の人に感謝する気持ち、相手を重んじる気持ちを持つことです。これが、対象者に「看護をさせていただく」という姿勢につながると考えます。コミュニケーションは、社会生活を営む人間の間に行われる知覚、感情、思考の伝達という意味があります（新村出、2008）。看護者は対象者と向かう時、相手の状況を五感で感じとり、看護行為を発展させます。このとき、対象者も看護者の存在を感じとり、その看護行為を受け入れます。「看護させていただく」という姿勢は、対象者を大切に思う看護者の看護を伝えることができます。

3. 看護学科カリキュラム構築に関して重視したこと

看護系大学は1974年には4校だけであった大学が2002年（平成14年）には100校を超えました。2014年（平成26年）には226校となり、2015年（平成27年）には237になろうとしています。この増加の原因の一つには、1992年（平成4年）に厚生労働省が制定した「看護師等の人材確保の促進に関する法律」（厚生労働省、1992）があります。看護師等の養成、処遇の改善、資質の向上、就業の促進を目的としたものですが、この中でも高度な知識と技術をもつ看護師等の養成は急務とみられ、大学増加に拍車がかかりました。

大学が増加することで、大学卒の看護師が増加し、教育レベルの向上が期待されます。しかし、急激な大学の増加は、大学ごとの教育の考え方や方法が様々であり、教育の質を維持する難しさも課題となっています。カリキュラムにはその大学で重視している教育の姿勢が科目に反映されます。当看護学科のカリキュラムは表1に示しました。

1) 朝日大学の建学の精神を具現化

当看護学科のカリキュラムを作成する際、まず重視したことは、学科目標が朝日大学の建学の精神からおりてくることでした。朝日大学保健医療学部看護学科は、朝日大学における歯学部、経済学部、法学部に続く4番目の学部として、2013年11月1日に文部科学省より認可を受け、2014年に開設しました。朝日大学は、国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして、人類普遍の人間の知性に富む人間の育成を建学の精神としています。そして、保健医療学部の教育目的は、専門職業人として高度な技術と知識をもち、高い倫理観と豊かな人間性と国際性を兼ね備え、社会に貢献できる人材の育成です。看護学科は、建学の精神を看護の専門職養成の教育に具現化するために、「人を思う心を持って人間関係を構築する力」「自己研鑽し

て未来を切り開く力」「社会に貢献し変革する力」という3つの力を身に付けることを学科目標としました。

2) 地域で生活する人をとらえる看護

看護学のカリキュラムはその時代の要請に応じて変化するものであり、人々からの看護職への期待、看護職が果たすべき役割が含まれていると思われます。その時代の人々の生活状況、価値観、健康のとらえ方、保健医療福祉を取り巻く制度や課題、社会や政治などが看護学に反映されます。カリキュラム作成で重視した時代の要請に応えるというのは、まず看護学がいわゆる病院における看護を示す臨床看護だけではなく、地域で生活する、自宅で生活する人々を看護するという広い視点に立ちました。

現在、医療の高度化、入院期間の短縮化と退院後の生活指導、慢性疾患をもつ対象者のQOLの維持、人々の健康と生活の多様化、価値観と生活習慣の変化、家族形態の変化などに対応するには、臨床看護から地域へつなぐ看護が必要となります。病院に入院した人がその人の望む、いつもの生活に戻れる支援が必要です。看護の専門領域である基礎看護学、成人看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、在宅看護のそれぞれがこのような視点を基に教育する必要性を強調したカリキュラムになっています。

3) 広い視野で学ぶ

看護師には人の命を守る、人の生活を支援する、健康な人から病気の人まで支援する職業的な使命をもっています。このような使命のためには、人の存在を重んじる、常に学習する、柔軟に思考する、洞察力、行動に責任を持つ、周囲の状況を認識できることが必要です。

このためには、自分を知ること、人間を知ること、考える力を養う教育が必要です。人間教育の基盤となる教養基礎を学習することが重要だと考えます。教養基礎教育は大学の看護教育で充実することが求められています(文部科学省, 2011)。当看護学科の教養基礎教育では、学生の知的・倫理的側面の育成、人権や擁護、物事を多面的にとらえる視野、異文化や異なる環境にある人の理解を深め、社会の中で創造的に行動していく力を養います。教養基礎科目を学ぶことで、看護の対象者をとらえる視点、自身の専門職として考え行動する視点が広く備わると考えます。

4) 学士力を身に付ける

平成20年12月に中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」では、各専攻分野を通じて培う学士力として4つのことが提示されています(文部科学省, 2008)。「知識・理解」は、専門の学問分野の基本的な知識を体系的に理解し、その意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連づけて理解することです。当看護学科では、教養基礎科目を人と文化、人と環境、人と関わりと区分し、専門基礎科目を社会と健康、からだと健康に区分してそれぞれの科目を配置し、看護の専門の土台となる知識を得るようにし、看護の専門科目では、成長発達段階に応じた専門領域において講義や演習、実習でこの力が付くようにしています。「汎用的技能」はコミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力の技能である。看護学科のカリキュラムには基本的に教養基礎、専門基礎の科目に配置しています。「態度・志向性」は自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力です。これは、倫理学や看護倫理や看護管理をはじめ、これらの力が身に付くように科目として配置しています。「統合的な学習経験と創造的思考力」も基礎ゼミナールや看護研究などの演習や臨地実習、看護の統合と発展の科目を配置することで1年次から4年次を通して身に付くようにしています。

特に1年次の前期、後期は初年次教育と位置づけた基礎ゼミナールは、大学で学ぶ方法、すなわち、スタディ・スキルが身に付くように配置しています。グループ学習や個人学習によってテーマ課題の探究、プレゼンテーション、レポート作成などによって聴く、読む、書く、調べる、整理する、まとめる、表現する、伝える、考える力が強化されます。

3. 看護学科の教育目標：3つの力

看護学科の教育課程は、あらゆる場で、あらゆるレベルの健康状態にある人のニーズに対応できる、人々の健康と生活を支える看護師として身に付けるべき3つの力に基づき編成しています。以下はこの3つの力の定義の説明です。

「人を思う心をもって関係を構築する力」

現在の社会では、少子高齢化、核家族化による家族構成の変化や電子媒体によるコミュニケーションが主流になり、人人との関係を薄くし、直接的な言葉や心の交流による相互作用的な関わりを弱めています。このため、高い倫理観の基に人を思いやる心をもち、電子媒体を介するだけでなく、人との心の相互作用を通じたコミュニケーション能力を備えた看護職が必要とされています。看護の対象者を人としてその尊厳を守り、権利を擁護し、また、保健・医療・福祉に関わる他職種と連携してリーダーシップがとれる力を身に付けます。

「自己研鑽して未来を切り開く力」

大学での学習は、自主性、創造性、思考力などを必要とします。目的を持って自ら学習する内容や方法を探究して、人間として、社会人として発展するための素養を備えることが求められます。卒業時に、看護職としての自己像だけでなく、将来、社会で活躍する専門職としての自己像を有して発展していくためには、キャリア教育が重要となります。保健・医療・福祉の発展に寄与できる看護専門職として、高度な知識と技術、状況の判断力と計画性、実践力、行動力を身に付けます。

「社会に貢献し、変革する力」

地域社会においては、人口動態、家族形態、経済、生活環境などが多様化し、住民の健康生活支援へのニーズも多様化しています。また、国外の保健・医療・福祉は、その国の文化や歴史、人々の暮らしを基盤にしたものではあるが、政治や紛争、自然災害などが影響して変化しています。地域に根ざし、そこに住む人々への看護を提供できる力や、将来、国際的な視野で保健・医療・福祉の状況と人々の健康を査定し、グローバルな看護を展開できる力を身に付けます。

4. おわりに

平成22年の「保健師助産師看護師法及び看護師等の人材確保の促進に関する法律の一部を改正する法律」の中で看護師国家試験受験資格を有する者として、文部科学大臣の指定した大学を卒業していることが明記されています（文部科学省，2010）。大学は4年間でゆっくりと人間性の涵養をしながら、看護学の専門を学びます。看護師は人間性が問われる職業です。人間的に成熟してこそ、自分以外の人の存在、相手の立場や状況の理解、支援ができると思われれます。

来年度、2回目の新入生を迎えると、2学年が揃うこととなります。学生の学習環境を整え、さらに充実した教育ができるように努力したいと思います。

引用文献

エリクソン, E.H 著, 仁科弥生訳 (1977). 幼児期と社会, 335-338, みすず書房, 東京
厚生労働省 (1992). 看護師等の人材確保の促進に関する法律.

law.e-gov.go.jp/htmldata/H04/H04HO086.html 201-4-12-1

モンゴメリー, C.L.著, 神郡博, 濱畑章子訳 (1995). ケアリングの理論と実践, 102-106, 医学書院, 東京

文部科学省 (2008). 中央教育審議会, 学士課程教育の構築に向けて (答申).

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm 2014-12-1

文部科学省 (2011). 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告.

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/.../1302921.htm 2014-12-5

文部科学省 (2010). 保健師助産師看護師法及び看護師等の人材確保の促進に関する法律の一部を改正する法律要綱.

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/attach/1282564.htm. 2014-12-15

新村出 (2008). 広辞苑第6版, 1055, 岩波書店, 東京

表1 朝日大学保健医療学部看護学科教育課程

教育課程等の概要														
(保健医療学部看護学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養基礎科目	人と文化	哲学	1前	2		○								兼1
		文学	1前	2		○								兼1
		歴史学	1前	2		○								兼1
		心理学	1前	2		○								兼1
		法学(含・日本国憲法)	1前	2		○								兼1
		政治学	1後	2		○								兼1
		経済学	1前	2		○								兼1
		統計学	1後	2		○								兼1
		人権論	3前	2		○								兼1
	日本語表現法	4後	2		○								兼1	
	人と環境	物理学	1後	2		○								兼1
		化学	1後	2		○								兼1
		生物学	1後	2		○								兼2
		倫理学	1前	2		○								兼1
		生命倫理	4後	2		○								兼1
		異文化理解	3前	2		○								兼1
		環境と科学	1前	2		○								兼1
		科学入門	1前	1		○			1					
		人間コミュニケーション論	1後	1		○								兼1
	人と関わり	英語Ⅰ(文献講読)	1後	1			○							兼2
		英語Ⅱ(英作文)	1後	1			○							兼2
		英語コミュニケーションⅠ(基礎)	1前	1			○							兼2
		英語コミュニケーションⅡ(応用)	1後	1			○							兼2
		情報処理基礎Ⅰ	1前	1			○		1					兼1
		情報処理基礎Ⅱ	1後	1			○		1					兼1
		総合	基礎ゼミナールⅠ	1前	1			○		5	5	10		
	基礎ゼミナールⅡ	1後	1			○		5	5	10				
	健康とスポーツ	1前	1		○								兼1	
	スポーツ実践	1前	1				○						兼3	
小計(29科目)	—	14	32	0		—		6	5	10	0	0	兼20	
専門基礎科目	社会と健康	保健統計学	2前	2		○								兼1
		疫学	3前	2		○								兼1
		臨床心理学	4後	2		○								兼1
		発達心理学	2前	2		○								兼1
		保健医療福祉行政論	3前	2		○								兼1
		公衆衛生学	1後	2		○								兼1
		専門職連携	3前	1		○			1		1			兼1 オムニバス
	からだと健康	生化学	1後	2		○								兼1
		薬理学	1後	2		○								兼1
		病理学	1後	2		○								兼1
		臨床栄養学	1後	2		○			1					兼8 オムニバス
		微生物・感染	2前	2		○								兼1
		形態機能学Ⅰ(解剖学)	1前	1		○								兼1

教育課程等の概要

(保健医療学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	形態機能学Ⅱ (解剖学)	1後	1			○								兼1	
	形態機能学Ⅲ (生理学)	1後	1			○								兼1	
	形態機能学Ⅳ (生理学)	1後	1			○								兼1	
	歯と健康	4後		1		○								兼1	
	健康と生活	1前	1			○			1		2				オムニバス・共同 (一部)
	臨床病態学Ⅰ (消化器・循環器・呼吸器系)	2前	1			○								兼6	オムニバス
	臨床病態学Ⅱ (脳神経・感覚器・運動器系)	2前	1			○								兼7	オムニバス
	臨床病態学Ⅲ (内分泌・代謝, 造血器, 腎・泌尿器系)	2後	1			○			1					兼5	オムニバス
	臨床病態学Ⅳ (精神, こころの障害)	2後	1			○								兼1	
小計 (22科目)	—		28	5	0			—	3		2	0	0	兼31	
専門科目	看護の基礎	基礎看護学概論	1前	2			○		1					兼1	客員教授の特別講義1回
		看護過程論	1後	2			○		1	1	1				オムニバス・共同 (一部)
		フィジカルアセスメント	2前	2			○		1	1	1	2			オムニバス・共同 (一部)
		看護技術論Ⅰ (生活援助)	1後	2				○	1	1	1	2			オムニバス・共同 (一部)
		看護技術論Ⅱ (診療援助)	2前	2				○	1	1	1	2			オムニバス・共同 (一部)
		基礎看護学実習Ⅰ (看護の場と対象)	1前	1				○	1	1	1	6			共同
		基礎看護学実習Ⅱ (看護過程)	2後	2				○	1	1	1	6			共同
	看護の実践と展開	成人看護学概論	2前	1			○		1					兼1	客員教授の特別講義1回
		成人看護学援助論Ⅰ (急性期)	2後	2			○		1		4				オムニバス・共同 (一部)
		成人看護学援助論Ⅱ (慢性期)	2後	2			○		1		4				オムニバス・共同 (一部)
		成人看護学演習	3前	1				○	1		4	1			共同
		成人看護学実習Ⅰ (急性期)	3後~4前	3				○	1		4	1			共同
		成人看護学実習Ⅱ (慢性期)	3後~4前	3				○	1		4	1			共同
		老年看護学概論	2前	1			○		1						
		老年看護学援助論	2後	2			○		1	1					オムニバス
		老年看護学演習	3前	1				○	1	1		1			共同
		老年看護学実習	3後~4前	4				○	1	1		1			共同
		小児看護学概論	2前	1			○			1				兼1	客員教授の特別講義1回
		小児看護学援助論	2後	2			○			1	1				オムニバス
		小児看護学演習	3前	1				○		1	1				共同
小児看護学実習	3後~4前	2				○		1	1				共同		
母性看護学概論	2前	1			○		1								
母性看護学援助論	2後	2			○		1	1					共同		

教育課程等の概要															
(保健医療学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
看護の実践と展開	母性看護学演習	3前	1				○		1	1		1		共同	
	母性看護学実習	3後～4前	2				○		1	1		1		共同	
	精神看護学概論	2前	1			○			1						
	精神看護学援助論	2後	2			○			1						
	精神看護学演習	3前	1				○		1			1		共同	
	精神看護学実習	3後～4前	2				○		1			1		共同	
地域生活支援の展開	在宅看護概論	2後	2			○					2			共同	
	在宅看護援助論	3前	2			○					2			共同	
	在宅看護実習	3後～4前	2				○				2			共同	
	公衆衛生看護学概論	2前	2			○				1			兼1	客員教授の特別講義1回	
	家族看護学	2前	2			○			1	1	1			オムニバス・共同(一部)	
	健康管理論	2前		2			○						兼1		
	公衆衛生看護活動論Ⅰ(地域診断と活動課題)	4前		2			○			1	1			共同	
	公衆衛生看護活動論Ⅱ(ライフステージと活動)	4前		2			○			1	1			共同	
	公衆衛生看護活動論Ⅲ(健康課題と活動)	4前		2			○			1	1			共同	
	広域公衆衛生活動(学校・産業看護活動)	3前	1				○		1		1			オムニバス	
	公衆衛生看護学実習	4前		5				○		1	2			共同	
専門科目	看護研究	3前	1				○		2					オムニバス	
	看護研究演習Ⅰ(文献クリティーク)	3通	2				○		5	5	10				
	看護研究演習Ⅱ(卒業研究)	4通	2				○		5	5	10				
	看護管理論	4後		1			○				1		兼1	オムニバス	
	看護教育学	4後		1			○						兼1		
	看護倫理	4後	1				○		1						
	リスクマネジメント	3前		1			○		1		3			オムニバス・共同(一部)	
	災害看護	4後		1			○				2			オムニバス	
	国際看護論	4後		1			○		1	1			兼1	オムニバス	
	統合実習	4前	2					○	5	4	8	6		共同	
小計(50科目)	—	70	18	0		—		5	5	10	6	6	兼7		
合計(101科目)		—	112	55	0		—		8	5	10	6	6	兼57	
学位又は称号		学士(看護学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
4年以上在学し、必修科目112単位、教養基礎科目の選択科目から10単位以上、専門基礎科目の選択科目から1単位以上、専門科目の選択科目から2単位以上を修得し、125単位以上を修得すること。						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						